

# 平成16年12月教育長定例記者会見資料

事 項	内 容	備 考
土曜日の過ごし方の変化について	<p>土曜日の過ごし方調査の比較</p> <p>1 比較調査名 「平成14・15・16年度完全学校週5日制に伴う土曜日の過ごし方に関する調査」</p> <p>2 比較対象日 (1) 平成14年度 平成14年10月19日(土)【調査第1週】 平成14年10月26日(土)【調査第2週】 (2) 平成15年度 平成15年10月18日(土)【調査第1週】 平成15年10月25日(土)【調査第2週】 (3) 平成16年度 平成16年10月16日(土)【調査第1週】 平成16年10月23日(土)【調査第2週】</p> <p>3 対象者 小中学生を対象に悉皆調査を行った。 (1) 平成14年度 小学生 約177,000人 中学生 約94,000人 (調査日によって回答数の変動あり。) (2) 平成15年度 小学生 約176,000人 中学生 約91,000人 (3) 平成16年度 小学生 約175,000人 中学生 約88,000人</p> <p>4 調査結果から &lt;質問事項&gt; Q1「あなたはおもにだれと過ごしましたか。」(2つまで選択可) Q2「あなたはおもに何をして過ごしましたか。」(2つまで選択可) &lt;小学生&gt; ひとりで過ごす児童が年々減少している。家族と出かけたりスポーツ少年団で活動をしたりする児童が増加している。また、「外で遊んだ」と回答した児童も多い。学校週5日制の趣旨が定着してきていると言える。 (1) Q1では「家族と過ごした」が増え、「ひとりで過ごした」児童の割合が減っている。 (2) 特にQ1では「ひとりで過ごした」「2日間ともひとりで過ごした」と回答した児童が減少している。 ア「ひとりで」 ・平成14年度17,146人(4.8%) 平成15年度12,584人(3.7%) 平成16年度11,470人(3.3%) イ「2日間ともひとりで」 ・平成14年度2,665人(1.5%) 平成15年度1,933人(1.1%) 平成16年度1,055人(0.6%) (3) Q2では「部活動や少年団活動に参加した」「家族と出かけた」などの児童の割合が増え、「家で好きなことをして遊んだ」児童の割合が減っている。 &lt;中学生&gt; ひとりで過ごす生徒が年々減少している。部活動に参加する生徒の割合が多く、友達とのかかわりが大きいと言える。 (1) Q1では「ひとりで過ごした」生徒の割合が年々減っている。「友だちと過ごした。」生徒の割合が多い。 「ひとりで」 ・平成14年度28,062人(16.0%) 平成15年度22,097人(14.1%) 平成16年度20,040人(11.9%) (2) Q2では、「ゲームやテレビを見て過ごした」「家で好きなことをして遊んだ」「勉強をした」などの生徒の割合が減っている。 全調査結果については別紙</p> <p>5 参考 「元気いばらきっ子『エンジョイ・サタデー』事業の実施状況」 県が主に土曜日に実施している体験活動に関する事業に参加する子どもたちが増えている。 (1) 事業の趣旨 完全学校5日制の実施に伴い、学校外での各種体験活動の充実が求められているため、県施設の持つ特性を生かしながら主に土曜日に各種事業を展開し子どもたちに心豊かな人間性や自主性・創造性をはぐくむ。 (2) 事業の実施施設 県立青少年教育施設(5か所) 1年間の実施回数 12回程度×5施設=60回程度 県生涯学習センター(4か所) 1年間の実施回数 20回程度×4施設=80回程度 (3) 事業内容 自然体験活動、農業体験、キャンプ、レクリエーション、創作活動、映画会、音楽活動、英会話、星座観察等 (4) 昨年度との比較(10月までの参加者比較) 平成14年度 36,996人(延べ76回) 平成15年度 46,201人(延べ75回) 平成16年度 50,769人(延べ74回)</p>	<p>義務教育課指導担当(内線 5226) 生涯学習課学習支援担当(内線 5322)</p>